

第3章 まちづくりの目標

第3章 まちづくりの目標

1. まちづくりの目指すべき方向

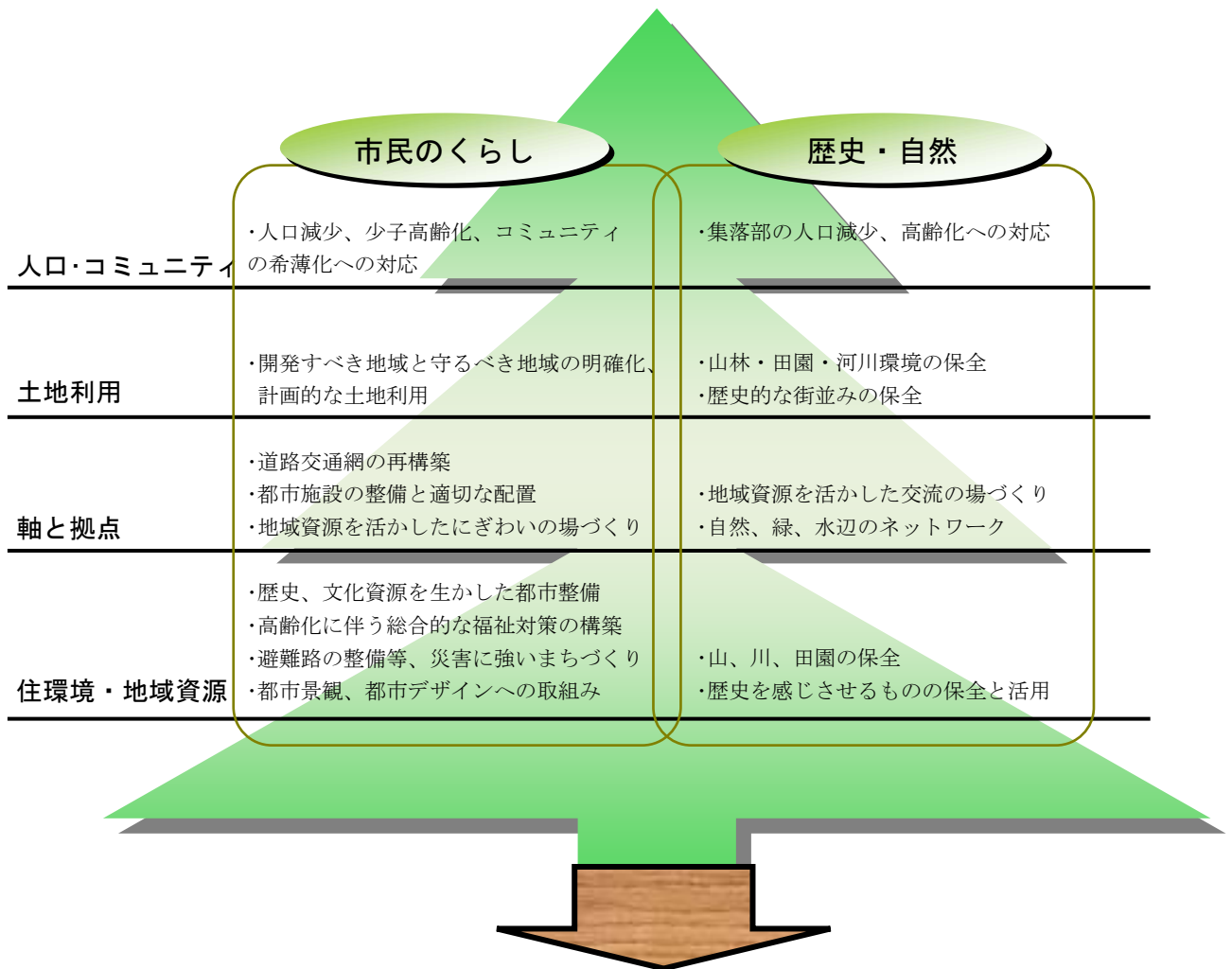
まちづくりの課題と住民アンケートによる本市の評価により、まちづくりの方向性について検討する。

(1) 黒石市全体の課題から

本市では、人口減少や少子高齢化を背景に、まちとしてのにぎわいや活力が失われつつあり、このままでは、「黒石のよさ」や「黒石らしさ」を活かしたまちづくりを進めていくことが難しい状況となっている。

本市には、長い年月をかけて創り上げてきた街並み・田園・人々のくらしが残されており、豊かな歴史を随所に感じることができる。

このような「市民のくらし」に着目しながら、歴史と自然とを調和させていくことで、本市が持つ魅力を再認識する段階にきている。



「市民のくらし」に着目し歴史と自然が調和・共生するまちづくり

(2) 住民による黒石市の評価から

住民アンケートにおける「生活の満足度」からは、以下のことがうかがえる。

◎都市基盤、都市施設、都市機能（生活の利便性等）について

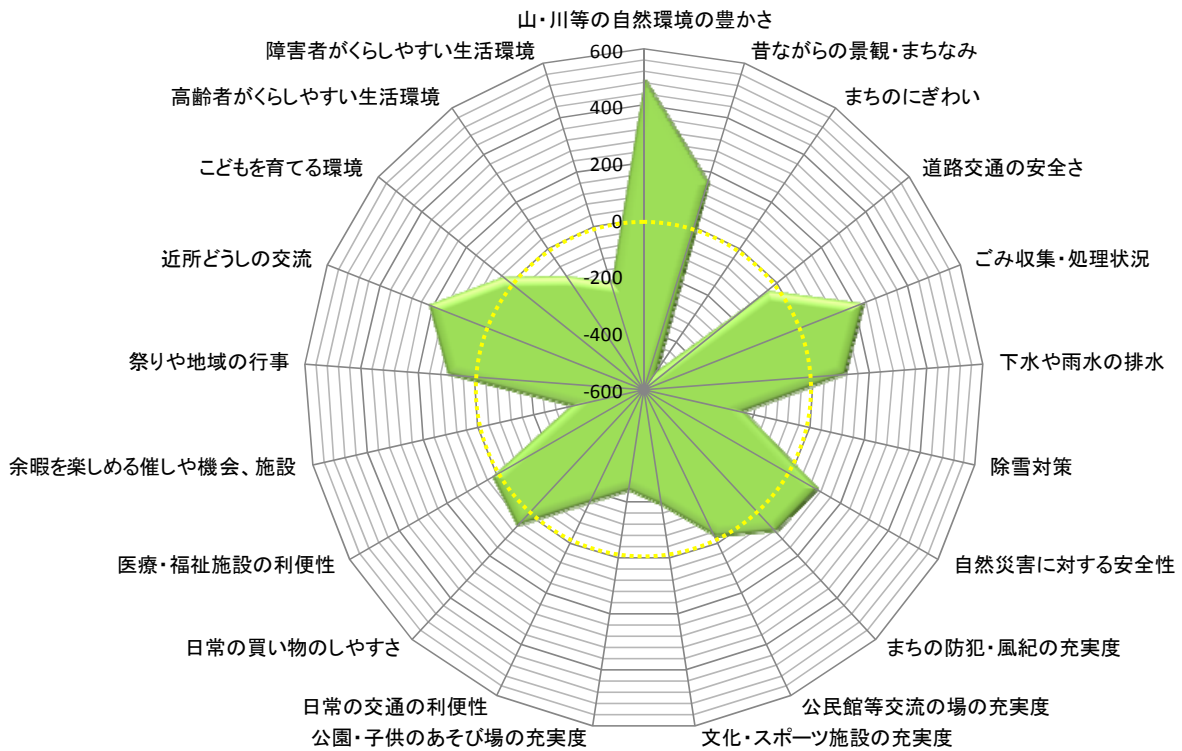
まちのにぎわいについての満足度が非常に低くなっており、道路等の都市基盤、公園・下水道・公共公益施設等の都市施設についての評価も低く、都市機能からみた本市の評価は低い。一方、ごみ収集や処理状況は高い評価となっている。

◎自然環境について

生活環境に関する満足度をみると、「山・川等の自然環境の豊かさ」といった自然については高い評価である。本市の自然は、手のつけられていない昔からの自然環境と、人の手によって創り出された自然（もみじ山、田園等）の両方の魅力がある。

◎都市の安全性・コミュニティについて

防災・防犯等のくらしの安全性や、近所どうしの交流、昔ながらの景観・街並み、祭や地域の行事については満足度が高く、人との繋がりが強固で安全なまちである。しかし余暇を楽しめる機会や施設、にぎわいなどの満足度が低くなっている。



歴史や自然、昔ながらの景観、コミュニティが残っているまちである。

しかし、まちのにぎわいに関して住民の満足度は低い。

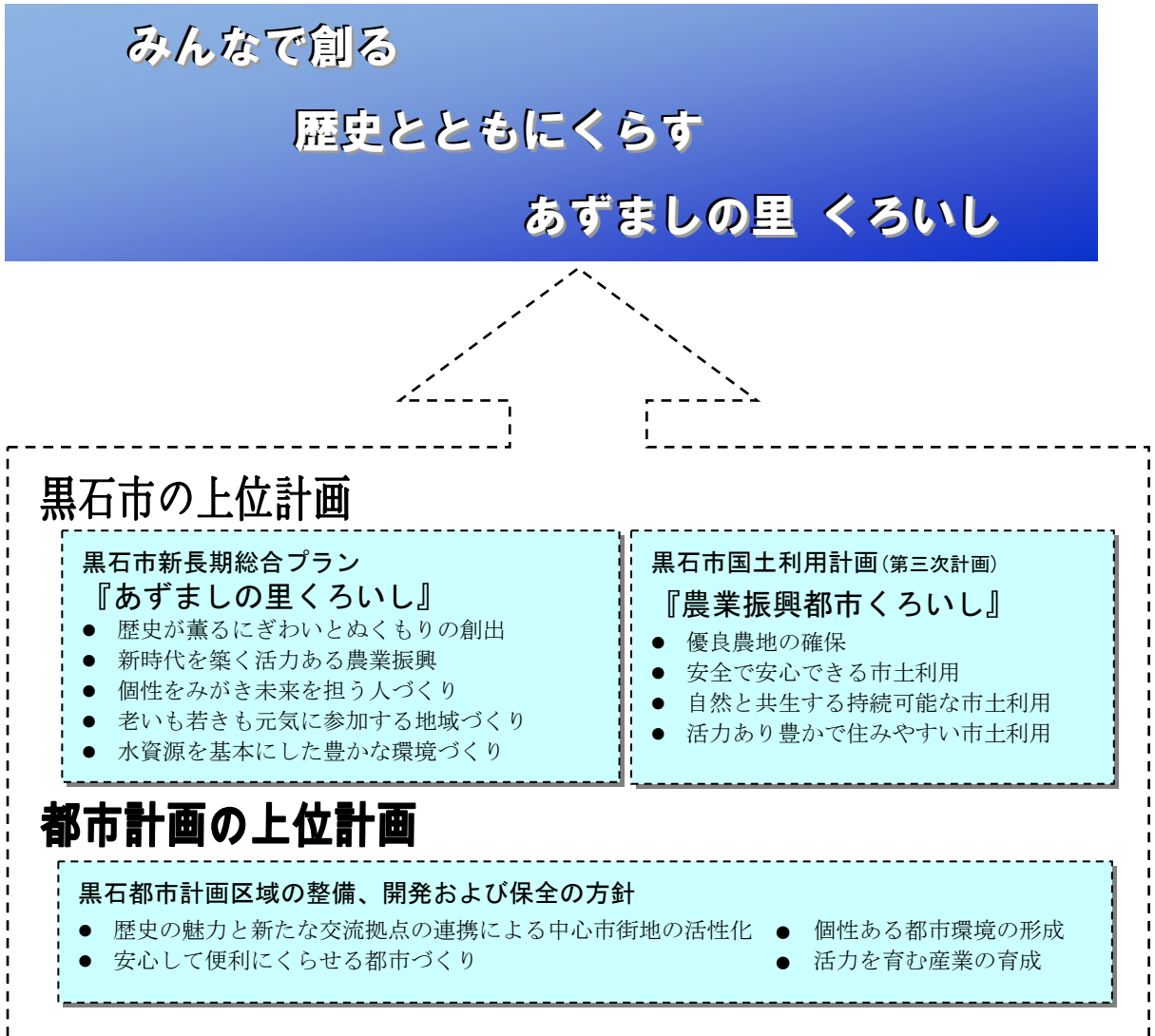


歴史を活かしながら、まちのにぎわいを取り戻す必要あり！

(3) まちづくりの基本理念

本市を取り巻く社会情勢は日々変化しており、本市にとって本当に重要なもの、育てていかなければならないものを考える時期にきている。

今後、本市が進めていくまちづくりの方向性について、上位計画を踏まえながら、市民全員が共有できるよう基本理念を次のように設定する。



本市の財産は、中心部の歴史・文化資源と市の8割を占める山々と山裾に広がるりんご畑や、浅瀬石川の清流、広大で豊かな田園風景にある。城下町である本市は、まちなかの魅力を高めつつ、周辺地域と共生したまちづくりが進められており、すばらしい歴史を守り引き継いでいくことこそが重要な課題となる。

今後とも、豊かで明るく活力に満ちた、住みよいまちづくりを基本に、歴史と文化を大切に、自然の恵みを受けながら心豊かに安心してくらせる地域社会の実現を目指していく。また、住民にとっての真の住みよさや豊かさを再確認し、住んでいる人が心から満足できるようなまちを、行政と住民との協働により育てていくことを目指す。

(4) まちづくりの目標

まちづくりの基本理念である『みんなで創る歴史とともにくらすあずましの里くろいし』の実現を図る目標として、5つの目標を設定する。

『歴史～こみせ～』を活かしたくらし

本市は、江戸時代から伝わる「こみせ」をはじめ数多くの歴史的資源に恵まれている。これらは重要な要素であるとともに次世代に引き継ぐべきまちの貴重な財産であり、歴史的な街並みを活かしたにぎわいの再生が必要である。

また、点在する資源の連携を図り、歴史・文化そして自然が、うまく調和した黒石固有の魅力ある都市を目指す。

『自然』と共生するくらし

八甲田連峰や津軽平野の景観、清らかな水が流れる浅瀬石川等の豊かな自然に恵まれており、これらを活かしたまちづくりが必要である。

このため、良好な自然環境を保全するとともに、交流、体験を通じて自然と向き合い、豊かな自然を身近に感じられる都市を目指す。

『まち』で安心・快適なくらし

本市では、少子高齢化が進んでおり、総人口も減少傾向にあることから、誰もが安心しておだやかにくらし続けられるまちづくりが必要である。

このため、市街地や既存集落における生活基盤の整備を推進し、居住環境の向上を図りながら、市民の目線に立ったやさしいまちづくりを進め、安心・快適な生活環境を創り出す。また、農業施策の展開や地場産業の育成・振興、新たな産業の創出に対して支援を行い、定住できる活力に満ちた豊かな都市を目指す。

『人』と人との繋がりでやすらぐくらし

昔から受け継がれてきた祭りといった伝統文化を、後世に受け継いでいくことが必要である。

このため、一人一人が本市の看板・顔という意識を持ち、愛着の持てるまちづくりを行えるよう、活動を支援するしくみづくりを行い、良質なコミュニティの維持を目指す。

『産業』で安定生活を過ごすくらし

本市では、第一次・第二次産業が大半を占めていたが、近年は第三次産業が大半を占めている。本市の主要な産物である米とりんごを活用し、観光との連携やグリーンツーリズムに取り組み、農業の魅力を高める必要がある。

このため、各産業との連携を進めることでそれぞれが成長できる環境を作り、生産品の付加価値化・ブランド化といった知名度を高める仕掛けや情報戦略を推進する。

2. 将来フレーム

(1) 将来人口フレーム

人口問題研究所の推計によると、平成40年の推計人口は約36,000人となっているが、定住化促進施策の展開により、人口減少率が徐々に緩和されるものとし、目標年次の将来人口フレームを38,000人とする。

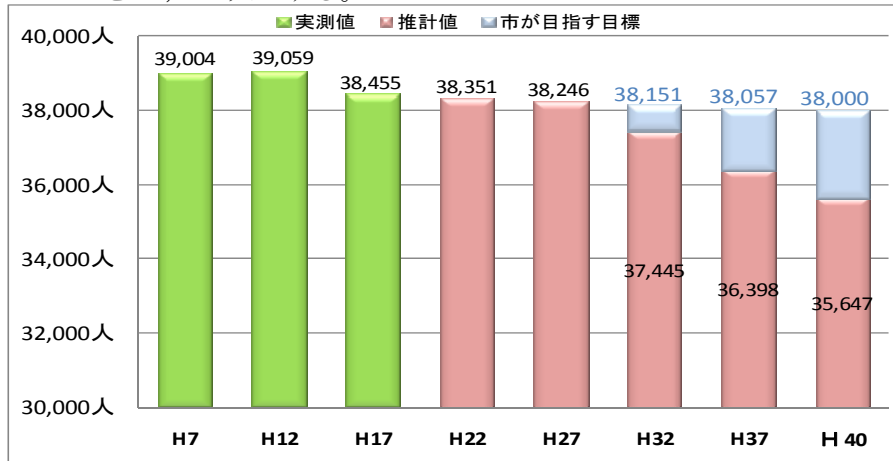


図 3-2-1 黒石市の将来人口 ※将来人口値は人口問題研究所データより参照

(2) 就業人口フレーム

平成40年の就業者総数は17,795人で、第一次産業3,985人(22.4%) 第二次産業1,837人(10.3%) 第三次産業11,973人(67.3%)と予測される。

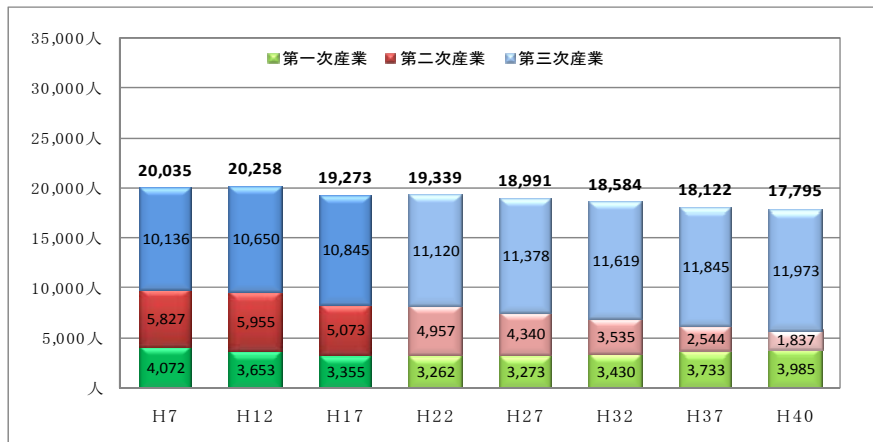


図 3-2-2 黒石市の将来就業人口 ※将来就業人口値はトレンド推計にて算出

(3) 土地利用フレーム

本区域の用途地域内人口は、平成17年以降、約20年間での増加は予想されず、住居系および商業系の用途・土地利用の拡大も見込まれないことから、本区域において新たな土地需要は想定しないものとする。また工業誘致の可能性等が生じた際に、需要と供給のバランスを図るため用途拡大等の見直しを行うものとする。

表 3-2-1 黒石市の人口密度推計

	実績値						推計値									備考
	平成7年			平成17年			平成27年			平成37年			平成40年			
	面積 (ha)	人口 (人)	人口密度 (人/ha)	面積 (ha)	人口 (人)	人口密度 (人/ha)	面積 (ha)	人口 (人)	人口密度 (人/ha)	面積 (ha)	人口 (人)	人口密度 (人/ha)	面積 (ha)	人口 (人)	人口密度 (人/ha)	
行政区域	21,696	39,004	1.8	21,696	38,455	1.8	21,696	37,906	1.7	21,696	37,357	1.7	21,696	36,808	1.7	
都市計画区域	7,159	38,586	5.4	7,159	37,961	5.3	7,159	37,459	5.2	7,159	36,917	5.2	7,159	36,374	5.1	
用途地域	603	22,346	37.1	603	24,004	39.8	603	22,689	37.6	603	22,361	37.1	603	22,032	36.5	
都市計画区域外	14,537	418	0.0	14,537	494	0.0	14,537	447	0.0	14,537	440	0.0	14,537	434	0.0	

3. 将来都市構造

(1) 市全体の都市構造

● みんなで創る 歴史とともにくらす あずましの里 くろいし ●

本市の歴史や文化は、いにしえより受け継いできた誇りであり、後世へ引き継ぐべき財産である。そのことを市民一人一人がくらしの中で意識しながら「歴史とともにくらす」まちづくりを進めていく必要がある。

また、米とりんごなどの優れた農業の魅力を引き出しながらまちづくりを進め、広く都市交流を進めていくことは、黒石ならではの魅力を情報発信し、地域の活性化に繋がると考えられる。

歴史とともにくらしながら、新しい生活の形やまちを創ることができれば、本市から新しい時代に向けて情報発信がなされると考えられる。

このため、歴史や文化、米、りんご等の大地の恵みを基盤として、多くの時間と手間をかけながら大切に育むことにより、本市を支えてきた様々な人々の愛情を一身に受けた、生き生きとした地域を創っていくことを目標とする。

本市が将来、目指すべき都市構造について、歴史と大地の恵みを基盤とし、くらしの中の「やすらぎ」「拠点」「軸」の3つの視点から表現する。

■くらしの基盤となる自然環境を位置づけます！

- 山辺の空間：山が広がっている空間を示します。
- 平野の空間：田畑が広がっている空間を示します。
- 水の踊り場：水を感じられる空間を示します。
- 大地の癒し：温泉など大地に恵まれた場所を示します。

■歴史と産業を活かしたくらしの拠点を位置づけます！

- 中心交流地：黒石市の最もにぎやかな地域を示します。
- 産業拠点：中心交流地以外に産業が盛んな地域を示します。
- アップルライン：りんご園が盛んな地域を示します。

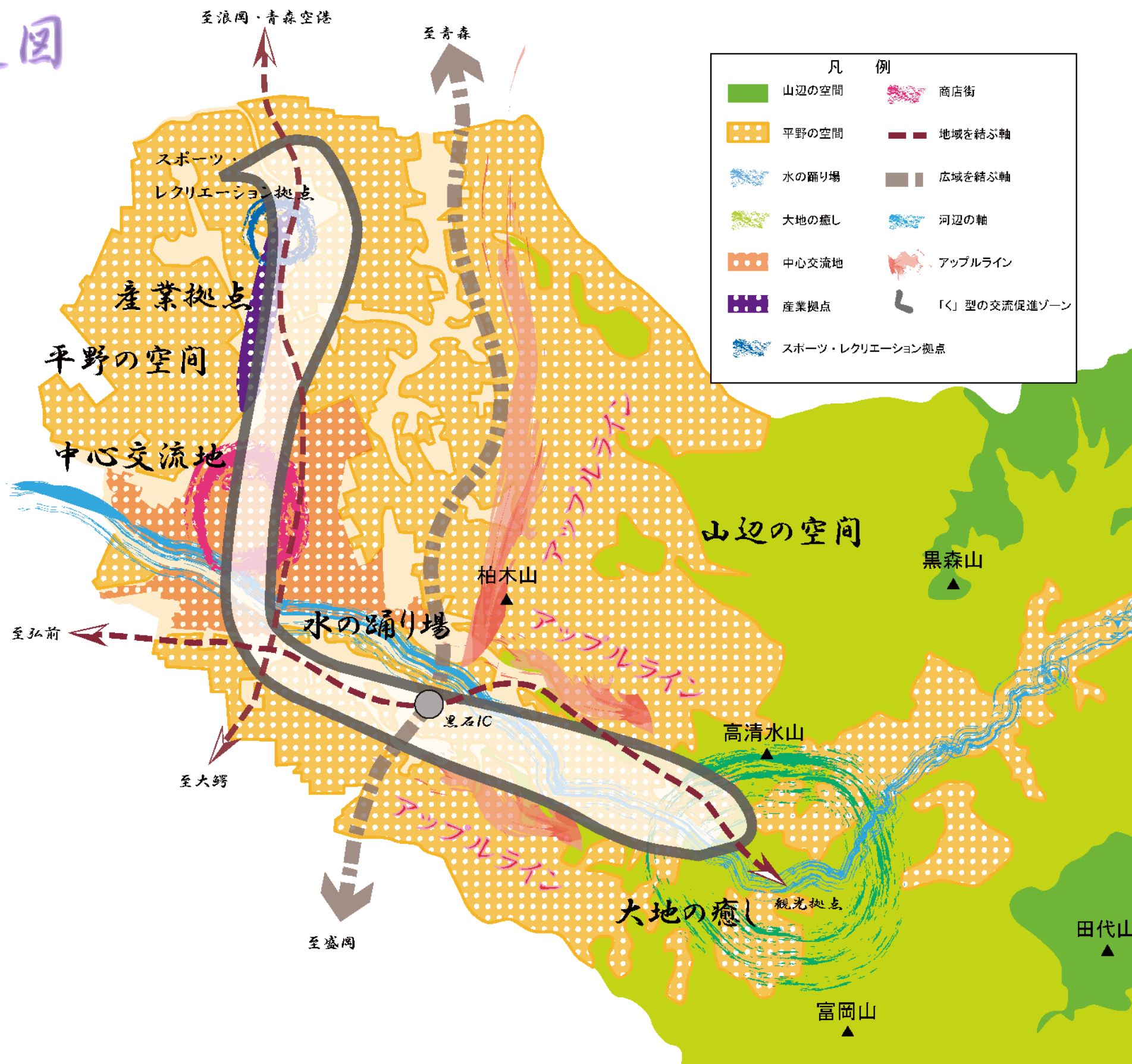
■地域間のくらしを結ぶ軸を位置づけます！

- 川辺の軸：黒石市を流れる代表的な河川、浅瀬石川を示します。
- 広域を結ぶ軸：東北自動車道（黒石IC）と国道102号を示します。
- 地域を結ぶ軸：国道394号と主要地方道大鰐浪岡線を示します。

■くらしの交流を促進するゾーンを形成します！

- 「く」型の交流促進ゾーン：黒石市のまちの形成をイメージして交流を促進していくエリアを示します。

黒石市将来構造図



凡	例		
	山辺の空間		商店街
	平野の空間		地域を結ぶ軸
	水の踊り場		広域を結ぶ軸
	大地の癒し		河辺の軸
	中心交流地		アッブルライン
	産業拠点		「く」型の交流促進ゾーン
	スポーツ・レクリエーション拠点		

本市の市街地形は、主に国道 102 号と(主)大鰐浪岡線に沿って形成されており、概ね『く』の字となっている。

そのため、本計画においては本市の市街地を「『く』型の交流促進ゾーン」として、黒石の将来の核となるエリアと位置づけることとした。

このエリアは、くらしの拠点であるとともに地域間のくらしを結ぶ軸でもある。

黒石市将来構造総括一覧表



「市民の似に着目し歴史と自然が調和・共存するまちづくり」

基本理念

『みんなで創る歴史とともに暮らすあずまの里(あい)』